

第14回日本核医学会総会のご挨拶

第14回日本核医学会総会は本年7月13、14日の両日東京で開催されることになりました。全国各地から参会される会員各位に心から歓迎の意を表します。今年は9月29日から10月5日まで、わが国において第1回の世界核医学会が上田英雄会長のもとで開催されますので、その兼ね合いで本総会は7月中旬に開催することにいたしました。そして世界核医学会で幾多の plenary lecture や symposium が行われますので、日本核医学会総会では一般演題に主力をおくことにいたしました。シンポジウムとしては私が専門としております甲状腺疾患の診断法に関するもののみを取り上げさせていただきました。またプログラム委員の方々と御相談の結果、核医学に携わる者すべてにとって共通の問題として「医療用 RI の取り扱い」に関するパネルディスカッションを開催することにいたしました。一般演題に主力をおくため講演時間、討議時間はなるべく長くしたいと思っておりましたが会員各位の御熱意により205題の演題が集り、プログラム委員会で検討の結果すべて発表していただくことになりましたので、1題のために使用できる時間は演説討論合わせて8分になりました。昨年、一昨年は演説6分、討論2分でありましたが、本年は討論の時間をなるべく多くしたいと思ひまして、演説5分、討論3分ということにいたしました。したがって演説される方々には時間が短く申し訳ないと思いますが、どうぞ時間内に要領よく御発表下さるようお願い申し上げます。

前述のように本年はわが国において第1回の世界核医学会が開催される記念すべき年であり、また此の世界核医学会を契機としてわが国の核医学会も一段の進歩を遂げることが期待されます。本総会における発表や討議もその足がかりとなるような実りあるものであることを心から願っております。なおプログラム委員の方々には御多忙中各地から御参集下さり、本総会のプログラムの編成に御協力下さったことを心から感謝いたします。

微力な私ではありますが、教室員諸氏の協力を得て本総会の運営に最大の努力をいたす所存であります。本総会が成功裡に遂行できますよう、会員の皆様方の御支援と御協力を心からお願い申し上げます。

第14回日本核医学会々長

鎮 目 和 夫